

広田小学校の防災学習

広田小学校は学区である半島全体が海に面しており、津波被害から身を守ることを含め、児童一人ひとりの防災意識の涵養は必要不可欠なことです。そこで以下の学習を教育課程に位置づけ、年間を通して行っています。

大野海岸清掃と津波避難訓練

地域住民や関係機関等と訓練



高校生や地域の方々と一緒に避難方法を学びました。

地域にある防災施設の見学



「高台に逃げる」いざというときの行動を確認しました。

地域防災マップづくり・発表会



自分たちの住む地域の危険箇所を調べ、ポスターにして発表しました。

東日本大震災津波伝承館見学



事実を知り、教訓を学び、犠牲となった方々へ祈りを捧げました。

3.11桜ラインの植樹



津波の到達点に植樹し、危険箇所を知らせる取組に協力しました。

地域で被災された方の話を聞く



広田小の仮設住宅に住んでいた方から、当時の暮らしについて聞きました。

3.11メモリアル集会



被災した方が、どのようにして避難し、自らの命を守ったかを聞きました。

歴史から学ぶ



津波を知らせる石碑から災害の歴史を学び、いざという時の備えを考えました。

救急救命講習・AED講習



救命救急法とAED講習を行い、大切な命を救う方法を学びました。

上記活動に加え、毎月11日は「震災を考える日」として、朝学習の時間にいわての復興副読本を中心に読み聞かせをしています。また、当時の新聞記事から被災状況や復興への道のりを読み、「いきる・かかわる・そなえる」力を育てています。